

ふたたびつながろう～互いをほめる連携～

令和5年6月30日(金)初石公民館ホールにて、「ふたたびつながろう～互いをほめる連携～」と題して、流山市内の医療・介護の専門職を対象に研修会を開催し55名の参加者がありました。

事例発表

5月8日からコロナウイルス感染症は、2類から5類感染症に位置付けられ、様々な活動が活発となっています。制約のなかで行われていた多職種連携もふたたびつながろうとしています。令和5年度第1回介護と医療をつむぐ会では、「互いをほめる連携」をテーマに事例中の支援者の判断、行動、周りとのかかわりにについていいと思ったところをグループ内で意見交換をしていただき、他者の見方、ほめあうことでのメンバー同士での信頼関係、コミュニケーションを深めていただきました。総括では「褒める」と「誉める」の意味。「褒める」は元気になれる。糧となるものである。という言葉いただきました。

「独居高齢男性の「安心して生活できる場所を」～多職種連携し施設入所に導いた事例～」

「独居高齢女性の「ここにいたい」をつなぐ～病院との連携を経て方針転換し、自宅看取りした事例」

1例目「独居高齢男性の「安心して生活できる場所を」からは、認知症だからといってあきらめず本人に根気強く説明。目標、期限を定めて動いたところ。役割分担をきめた。遠方の家族の協力をあきらめなかった。「命を守る」ことを主軸にぶれなかったところ。あきらめず様々な面からアプローチをかけていた。地域の力。Drの協力。が得られたところが良かったという意見がありました。

2例目「独居女性の「ここにいたい」をつなぐ」からは、本人が頑張った。家族に見守られ大好きな

場所でビールを味わい最期の時を過ごせてよかった。支援者のもやもやをそのままにせず行動したところ。家族の理解を得られるよう支援者が不安を取り除いたところ。皆が同じ目標を持ち行動できた。本人の意思を確認できていた点。Drとの間にはいい、在宅をコーディネートした点。方向性は変化していい。迷ったときは本人の気持ちファースト。人生はリセットできない。わがままでいい。との意見が出ました。

アンケート抜粋

- ・久しぶりに対面でたくさんの方と顔を合わせられて楽しかった。
- ・Zoomよりとても近く通じ合える気がする
- ・発表がないことで話し合いの時間を多く持てた
- ・医療職の現場の音が聴けた
- ・「褒める」の概念がわかった
- ・他職種の方の考えや困っていることを知れた
- ・どのように連携していけばいいか分かった。
- ・あきらめない気持ちが大切

次回のつむぐ会は・・・

「職種の壁を飛び越える～目標に向かって連携しよう～」

令和5年8月14日(月) 15:00～17:00
流山市ケアセンター4階研修室で開催予定です。

今回は、日中開催となります。第1回つむぐ会でつながった連携。各職種の強みを理解しさらに強めましょう。今回もグループ発表は行いませんのでじっくり意見交換をしてください。